

Heman, N.S. and Reddy, B.M. (1998)

Demographic implications of socioeconomic transition among the tribal populations of Manipur, India. *Human Biology*, 70: 597-619.

1. INTRODUCTION

伝統社会においては、様々なものが変化した（社会文化的、政治的、信仰、職業構造、経済状態、資源管理の方法、食生活）。集団遺伝学に重要なことは、「これらの変化にともなう、婚姻パターン・出生率／死亡率が変化し、さらに集団の人口学的構造、遺伝的集団構造が変化する可能性がある」ということである。

2. HISTORICAL PROCESS OF SOCIOECONOMIC TRANSITION

対象は、the Gangte, the Kuki-speaking tribe of Manipur 州（インド北東部）。19世紀まで、tribe 間の接触はほとんどなかった。伝統的には戦争にともなうあるいは畑を作る場所をもとめての居住地の移動が頻繁に行われていたが、19世紀はじめにイギリスの統治が始まるとともに定住した。キリスト教の布教が20世紀初頭に始まり、1961年にはほぼ全員がキリスト教に改宗した。インド独立後、道路網の整備がすすみ州内の道路は959.5km（1956）から4754.1km（1990）にのびた。また、学校と保健センターの数も増えた。人口は激増し、都市部への移住が増加し、農耕の集約化、換金作物の導入、森林資源緒商業的利用などがすすんだ。

3. DATA AND METHODS

社会経済的变化にともなう人口構造・集団構造の変化を研究するために、共時的研究と移住研究を組み合わせで行なった（社会経済的状态の異なる集団を比較し、移住者集団をその母村集団と比較する）。

対象は11村落（3村落：町、3村落：町から7km以内の山麓部、5村落：焼畑農耕民）。

Table 1. 対象世帯

インタビュー：年齢、性、婚姻状態、結婚年齢、出生数、死亡数、流産数、死産数、家族サイズ、移住歴、文字の読み書き、職業、収入、土地の所有形態、所有財、土地の生産性、資源管理の方法。全体の73%がインタビューに応じた。

4. RESULTS

4-1. Socioeconomic conditions

Table 2. 収入：焼畑農耕民<定住農耕民<町居住者

Table 3. 識字率と教育レベル：焼畑農耕民<定住農耕民<町居住者

4-2. Age and sex structure

Figure 3. 人口ピラミッド：0-14歳階級の人口：焼畑農耕民>定住農耕民>町居住者；町居住者は、再生産年齢の女性人口割合が最も高いが5歳以下の人口割合が最も低い。

Table 4. 年齢群別性別比：年齢階級別に見るとばらつくが、全体としてみると女性が多い。

4-3. Age at marriage

Table 5. 年齢群別結婚年齢：若い世代の方が結婚年齢が低い。焼畑農耕民、定住農耕民、町居住者の3グループでそれぞれの平均値には差がみられない。

Table 6. 収入レベルによる結婚年齢：収入レベルと結婚年齢にはっきりした関係は認められない。

4-4. Migration

Figure 4. 移住パターン：町への移住者のほとんどは職探しの既婚男性である。町に居住する男性の80%が外で生れて移住してきた。焼畑農耕民グループ→定住農耕民グループ→町

居住グループの方向の移住がみられ、逆の方向はほとんどない。

4-5. Admixture pattern

Table 7. 外婚・内婚の割合：Gangte の男性と結婚した女性の中で、Gangte 以外の出身者の割合は、32.1%。町居住者は、外婚割合が高く、しかも若い世代において顕著である。それでも外婚の相手は、ほとんど Kuki-speaking group の中である。

4-6. Fertility

Table 8. 出生児数：40 歳以上の既往出生児数は 6.44 であり、焼畑農耕民 > 定住農耕民 > 町居住者であるが、統計的に意味のある傾向がみられる年齢階級は限られている。

Table 9. 収入レベルによる出生児数：町居住者以外のグループでは、収入が高いほど既往出生児数が多い；町居住者のグループでは収入が高いほど既往出生児数が少ない。

4-7. Infant and child mortality

Table 10. 収入レベル別、5 歳未満で死亡する子供の割合：インド全体と比較すると子供の死亡率は低い、焼畑農耕民 > 定住農耕民 > 町居住者の傾向。

4-8. Opportunity for natural selection

Table 11. クローの指標： I_t は全体的に低い。 I_m は、焼畑農耕民 > 定住農耕民 > 町居住者。 I_t はグループごとの差がみられないが、わずかに町居住者グループで高い。インドの他の集団と違って、出生率の寄与が死亡率の寄与よりも大きい。

5. DISCUSSION

- ・グループ間での収入の違いを生み出した背景
- ・町居住者において外婚割合が高い理由
- ・焼畑農耕民が定住農耕民よりも外婚割合が高い理由
- ・外婚が集団構造に与える影響について
- ・結婚年齢が、若年層で低下していることについて
- ・女性が男性より多いことについて
- ・son preference? Difference in infant mortality?
- ・年齢群によって性比がばらつく理由
- ・定住農耕民の出生率が高かった理由：Spuhler (1976), Nag (1981)
- ・町居住者の出生率が低かった理由：教育・公衆衛生
- ・Infant mortality, Child mortality
- ・Crow's Index of selection

6. COMMENTS

本論文の結果は、「対象とした集団の中には複数の分集団が形成され、それぞれの分集団が固有の適応システムを発達させてきた。分集団間の移住はランダムではなく、分集団ごとに再生産パタンがことなる。すなわち、人口学的・遺伝的・個体群生態学的な集団構造が変化してきた」ことを示すものである。対象集団の個体群生態学的な理解が、フィールド調査においていかに必要であるかを示唆する論文であるとおもう。